

学校から考える

まちづくり

総合的な学習の試み

現在、小中学校で行われている「総合的な学習」。子どもたちが自らテーマを見つけ、学び、考えて、問題をより良く解決する力を育てることなどを目的に行われています。

今月は、地域の方々の協力も得ながら進められている学習の中から、三校の取り組みを紹介しましょう。

●地域の職場で体験学習

東光小学校

東光小学校（阿部智機校長 四百八十五人）では、学校周辺のスーパーなどで体験学習を実施。六年生八十四人が、それぞれ興味のある仕事を体験しました。

この学習は、仕事をする人たちと接することで人と人とのつながりの大切さを感じ、働くことの大変さと喜びを知ってもらおうと行われたもの。また、将来自分がどんな仕事をしたいか考えるきっかけづくりにもなっています。

この取り組みは、地域の協力を得て行われました。学校が商店街に相談したところ、快く受け入れ先を探してくれたそうです。そのほかにも幼稚園や保育園などに協力してもらい、十七カ所の職場で子どもたちはさまざまな仕事を体験しました。

大久保翔平君、関根渉君、山本崇路君の三人は、郵便局で窓口の仕事などを体験。郵便配達の仕事なども



郵便局では機械の操作など、いろいろな仕事に挑戦。訪れた人には積極的にあいさつをしていました
(東光小学校)



スーパーでの作業は、しゃがんだり、立ったりの繰り返しで少し大変。でも、慣れてくると素早く同じ種類を見つけて並べられるようになりました
(東光小学校)



を知りたくて郵便局を選んだという三人は、「いらつしやいませ」「ありがとうございます」と元気良く声を掛けながら、はがきや切手を売る手伝いもしました。「お客さんが大勢来て局の人たちは大変そうだったけど、親切にいろいろ教えてくれて勉強になりました」と三人は話します。

スーパーで職業体験をしたのは、後藤祐士君、高田祐希君、浜田翔太郎君の三人。最初に店の裏で商品の包装などを見学した後、売り場の棚を整理しながら商品を一生懸命並べました。「いつもきちんとしてみると大変なことが分かりました」「自分たちが棚をきれいにすることができてうれしいです」と仕事を終えた三人は話してくれました。

受け入れ先の皆さんも、「このような学習がこれからも続くのであれば進んで協力したい」と積極的に、地域のいろいろな仕事を体験することと将来に役立ててほしいと期待しています。